

## 国語

各回とも説明的文章と文学的文章の二問構成でした。文章はそれほど難易度の高いものではありませんが、速く正確に読み取る練習が必要です。設問では記述問題を必ず出題しており、採点の際には解答内容に応じて部分点をつけています。

第一回の□は説明的文章で、「本物の声」の重要性について、様々な例を用いて論じている部分です。同じく□は小説を出題しました。生まれ育った京都を離れ、東京で就職したいと考えている主人公と、それに反対する父親とのやりとりが描かれている場面です。

□の具体的な設問構成は以下のとおりです。また出題例として、解答字数が多い記述問題である(問四)の、設問と解答例、および注意点を挙げておきます。(その他の問題・解答の詳細はホームページで確認できます。)

### 〈□の設問構成〉

- ・漢字の読み書き(問一)
- ・記号問題・・・接続の言葉(問二)、本文の内容についての正誤問題(問八)
- ・抜き出し問題・・・傍線部の内容説明(問六、問七)
- ・傍線部の内容についてまとめる記述問題(問三、四、五)

### 〈□の記述問題の設問・解答例〉

〔問四〕その声は多くの場合、その人の良いところが失われていたり、作り声であつたりします とありますが、どうしてそうなるのですか。これより前の部分から読み取って、七十程度で答えなさい。

〔解答例〕幼い頃から、大きな声でみんなとそろえて声を出すようにしつけられるため、失敗しないように他の人と同じにしようとして、自分の声を抑圧するから。

〔注意点〕一番大切なことは「設問をよく読む」ことです。「理由」を問われていること、字数が「七十字程度」であること、また、「これより前の部分から読み取って」ということも見落とさないように。そうすれば、問題文の最初から〈中略〉までの部分をよく読み、理由説明としてふさわしいポイントを字数に合わせてまとめればよい、ということが分かります。しかし答案には、「単に本文の一部をそのまま抜き出しているもの」や、「筆者の考えをまとめたのではなく、自分の想像を混ぜて書いたもの」等が複数見られました。本文と設問にきちんと基づいた解答をつくれるよう、練習をしておきましょう。